

支援センターたより No.5

2020年10月17日

発行:太平洋核被災支援センター

<http://bikini-kakuhisai.net55.com>

事務局 宿毛市山奈町芳奈2779-2

山下正寿 Tel・Fax 0880-66-1763

<masatosi.sky@orange.zero.jp>

1. 幡多で原告個別相談・健康相談会を実施

9月20日、原告の希望を優先的に検討し、被災船員個々の負担を少なくするため、支援センター主催で健康相談と弁護士さんとの打ち合わせを同時並行で開きました。



マフラーを首に巻いた被災船員（橋元陽一氏撮影）

9/20(日)原告個別相談・健康相談会の様子

個別相談

医療生協四万十診療所：除本さんの次女、井上さんの長女

医療生協つどいの場「やまもも」：佐治さん

個別相談・健康相談

土佐清水市公民館：山崎さん、谷脇さん、平林さん

全体説明会は支援センター副代表・橋元氏の進行で、弁護士より今までの経過などを報告しました。その後、同じ会場で弁護士・原告の個別相談を同時に実施しました。

健康相談

医療生協四万十診療所・佐沼院長が岡村事務長とともに、山崎、谷脇、平林、原告3人を個別に健康相談してくれました。その後、下川口の原告・松下さん宅をわざわざ家庭訪問し、健康相談を行ってくれました。

原告の中には、普段より饒舌に話してくれた方が多く、個別相談という形で原告個々の要求に少し応えることができたかな、という手応えがありました。

また、参加された被災船員・遺族6名の方に、手づくりの「沙織織」マフラーを贈り、首に巻いて写真をとりました。被災船員の方は、敬老の日の贈り物として、嬉しそうに、少し照れていました。

製作は、川村かつ枝さんで、数か月かけて、30枚織っていただき、これから、高知市、室戸市の被災船員・遺族に届けます。マフラーに添えた川村さんのメッセージを添付します。

ビキニ被災船員・遺族の方々へ

66年前に起きたビキニ被災を受けて「子どもたちを核の被害から守りましょう。」と母親運動は始まりました。それから毎年母親大会が開かれ、母親運動は続いてきました。今年はコロナ感染拡大で大会こそ開けませんでした。感染が落ち着くと小さな集まりを持ち、ニュースをたくさん出して「一人ぼっちのお母さんをなくしましょう」と運動は続いています。被災者の皆様は早くに命を落とした久保山さんだけでなく、政府が事実を隠したために長年その後遺症に苦しみ、対策が遅れ常に死と隣り合わせで、身体と心に多大な苦しみを負ってこられたことでしょう。運動によって、少しずつ事実が明らかになり、「核をなくしたい」の思いは世界中に広がっています。

私の織ったマフラーがほんの少しでも、人生を前向きにする力になれば、こんなうれしいことはありません。私の織りのテーマはずっと「生活を楽しく」です。色を楽しみ、手触りを楽しみ、装うことで心がゆったりとくつろぐ、そんな作品を目指しています。気に入ったものに会える喜びを味わっていただけたら、もう最高です。

2. 幡多高校生ゼミナール、ビキニ被災調査を再開

9月20日、幡多ゼミの高校生が相談会に参加した山崎武さんのビキニ被災聞き取り調査を行い、終了後、越の海岸で特攻艇「震洋」の基地跡を山崎さんの案内でフィールドワークをしました。その後、窪津まで送り、窪津と遠洋漁業などの説明を受けました。

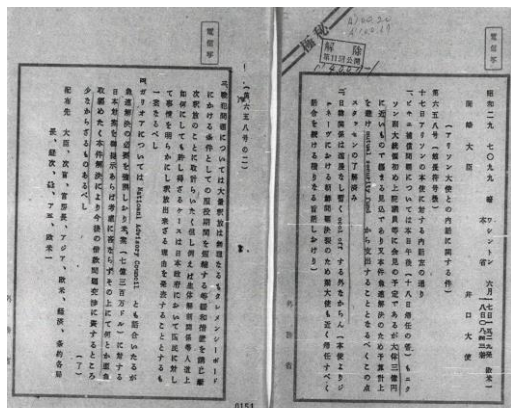
3. 号外!! 外務省極秘資料 (第 11 回公開解除) より

ビキニ事件の外務省折衝で、戦犯釈放とガリオア借款問題が取引材料に使われたことを示す公文書

外交史料館から取り寄せたビキニ事件政治決着関係資料 (330 頁) に、駐米大使からアリソン駐日大使との打ち合わせた内容を岡崎外務大臣に送った公文書がありました。戦犯釈放が議題となり、生体解剖関係者に触れていますが、731 部隊関係者には戦犯で収容された人がいたのか、九州帝国大学医学部が米軍捕虜 8 人を生体解剖していますのでこの医師たちは戦犯で収容されていたのか追跡が必要です。ビキニ事件の外務省折衝で、戦犯釈放とガリオア借款問題と取引材料に使われたことを示す公文書と思います。

更に、裏づけ資料を外交史料館で見ると、来館されると可能のように史料館担当者からききました。

【注】() は、「太平洋核被災支援センター事務局」記入



外交資料館 秘 公文書コピーの現物

昭和二九年六月七日 岡崎大臣

ワシントン本省 井口大使

(アリソン大使との内話に関する件)

一七日アリソン大使に対する内話左の通り

一、ビキニ補償問題については本日午後(一八日帰任の答)もニクソン副大統領初め上院議員等に会見の予定であるが大体三億円に近いもので纏まる見込みであり又本件急速解決のため予算計上を避け mutual security fund から支出することとなるべくこの点スタッセンの了解済み 【注】ビキニ環礁の水爆実験で被爆した 第五福竜丸以外の漁船に対する一括見舞金を予算計上せず「対外工作資金」から支出

二、日韓関係は進展なし暫く cool off する外ならん(本使よりジュネーヴにおける朝鮮問題決裂のため梁大使

も近く帰任すべく話を続ける積りなる旨話しおけり)

【注】日韓基本条約交渉のことと推定

三、戦犯問題については大量釈放は無理なるもクレメンシーボード(戦犯恩赦・仮釈放監察委員会)にかけける条件としての服役期間を短縮する等緩和措置を講じ漸次釈放のことに取計らいたく但し例えば生体解剖関係等人道に如何にしても許し得ざる ケースは日本政府において国民に対して事情を明らかにし釈放出来ざる理由を発表することとするも一案なるべし

【注】「九大生体解剖事件」(青木書店刊:東京裁判ハンドブック)より

1945 年 5 月 17 日から 6 月 3 日のあいだに、アメリカ軍搭乗員俘虜 8 人を、西部軍の監視のもとに、九州帝国大学医学部で 4 回にわたって生体解剖をおこなった事件。この事件の裁判は、横浜法廷で 1948 年 3 月 11 日からおこなわれた。証人喚問は 100 人をこえ、新聞にも報道されて、世間の注目をあびた。同年 8 月 27 日、西部軍関係では元司令官横山勇中将ら 2 人、九大関係では鳥巢太郎元第一外科助教ら 3 人が絞首刑、ほかに終身刑 4 人、重労働 14 人の判決がなされた。しかし、解剖された俘虜の肝臓を試食したという 5 人は、証拠不十分で無罪となった。判決後 2 年 3 カ月たった 1950 年 10 月、再審理により、絞首刑の宣告を受けた 5 人全員が有期刑に減刑された。この事件は、遠藤周作の小説『海と毒薬』のモデルとなり、映画「海と毒薬」(1986 年、熊井啓監督)も制作された。

四、ガリオアについては、Natioani Advisory Council とも話合いたるが急速解決の必要を強調しおり米案(7 億 3 百万ドル)に対する日本対案を御提示あらば考慮に吝(やぶさか)ならずその上にて何とか至急取纏めたく本件解決により今後の借款問題交渉に資するところ少なからざるものあるべし

【注】ガリオア貸与金(7億300万ドル)の返済を日本側が決定できなかった。ガリオア資金: 占領地救済政府基金(GARIOA) エロア資金: 占領地経済復興基金(EROA) 日本に対しては総額18億ドルの援助が行われ、うち13億ドルが無償援助となった。戦後共産主義陣営との対決が必然的に生じるなかで、アメリカが早期にドイツや日本などを復興させ、対共産主義の防波堤とするための政策ではあるが、日本の戦後復興が成った大きな要因である。

配布先 大臣、次官、官房長、アジア、欧米、経済、条約各局長、(略)